

磐田市ホームページ

アクセシビリティガイドライン

【平成 19 年 6 月策定】

はじめに

インターネットの普及に伴い、広報媒体の中でのホームページの重要性が高まってきています。開かれた行政の推進のため、ホームページによる積極的な情報発信に努めるとともに、閲覧者が必要な情報を簡単に入手できるホームページとしていく必要があります。同時に、市が発信する情報は、住民の皆様の生活に密着した分野や事業者の皆様のご活動に関わる分野など幅広いものとなります。それだけに、市が運営するホームページで提供する情報やサービスを利用したい方誰もが支障なく快適に利用できなければなりません。

このガイドラインは、誰もが使いやすいホームページを作成するため、ホームページ作成担当者ならびにホームページへ掲載する原稿の作成者が注意すべき項目とその具体的な対応方法を示したものです。

また、当ガイドラインに規定がない事項については、JIS規格「情報通信における機器・ソフトウェア及びサービスー 第3部:ウェブコンテンツ JIS X 8341-3」(以下「WebJIS」という。)等の規定を参照し、アクセシビリティの確保に努めることとします。

ウェブアクセシビリティ主管部署

秘書広報課

ガイドラインの適用範囲

■対象となるウェブサイト

磐田市ホームページ

■対象となる時期

対象となるホームページの新規作成時及び更新時

■対象となる作成者

(1) 対象となるホームページを作成する者(主には秘書広報課担当職員)

→以下、「ホームページ作成者」という

(2) ホームページ管理業務を市から委託された業者

→以下、「委託業者」という

(3) ホームページの原稿を作成する全ての職員

→以下、「原稿作成者」という

目次（掲載ページ・項目・対象）

掲載 ページ	No.	項目	対象		
			HP 作成者	委託 業者	原稿 作成者
5	1	すべてのページに、ページの識別ができ、かつ内容を的確に示すタイトルをつける	○	○	○
5	2	リンクは、リンク先の内容がわかるように表現する	○	○	○
6	3	記号や省略表記を使用する場合は、音声での読み上げに配慮する	○	○	○
6	4	単語内にスペースや改行を挿入しない。また、半角文字と全角文字を混在させる場合は、音声での読み上げに配慮する	○	○	○
7	5	半角カタカナ・機種依存文字(丸付き数字やローマ数字など)は使用しない	○	○	○
7	6	Word、Excel ファイルを公開する場合は、利用者に配慮する	○	○	○
8	7	ダウンロードするデータは、ファイル形式、ファイルサイズを明記する	○	○	○
8	8	基本的には英単語は小文字、数値は半角数字を使用する	○	○	○
8	9	想定する利用者にとって一般的ではない言葉(外国語・略語・行政専門用語など)を多用しない	○	○	○
9	10	1ページの長さを、適切な長さにする。長くなるときは、適切なナビゲーション(ページ内リンクや”ページの先頭へ戻る”リンク)を設ける	○	○	○
9	11	市ホームページから他サイトへのリンクについて	○		○
9	12	他サイトから市ホームページへのリンクについて	○		○
10	13	文字色と背景色のコントラストを充分に取る	○	○	
10	14	ウェブコンテンツの内容を理解・操作するのに必要な情報は、色のみを使用せずに、文字やパターン(模様)などを併用する	○	○	
11	15	現在表示されているページが、サイト全体、もしくは、コンテンツ内のどこに位置しているか、把握できるようにする	○	○	

掲載 ページ	No.	項目	対象		
			HP 作成者	委託 業者	原稿 作成者
11	16	横方向のスクロールが発生しないようにする	○	○	
11	17	フレームは使用しない	○	○	
12	18	同一サイト内へのリンクは、同じウィンドウに表示し、新たなウィンドウを開くことは、必要最小限にする	○	○	
12	19	リンクのある文字や画像などは、クリックしやすいように十分な面積にし、誤操作しないように十分な間隔をあける	○	○	
13	20	すべての画像には、画像の内容を的確に示す alt 属性をつける(画像の代替情報)	○	○	
13	21	A4 縦サイズで印刷できるような形式で作成する	○	○	
14	22	ホームページ作成時のフォルダ(階層)構造の基本ルールについて	○	○	
14	23	画面全体が短時間で連続的に変化するような表現を使用しない。画面の一部でも、明滅やスクロールの速いもの、色のコントラストが極端に変わるものなどは、使用しないことが望ましい	○	○	
15	24	文字サイズ、フォントおよび行間は、利用者が変更できるようにする	○	○	
16	—	【付録】用語解説			

1. すべてのページに、ページの識別ができ、かつ内容を的確に示すタイトルをつける。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者・原稿作成者

【解説】

「ページタイトル」の内容は、ブラウザのタイトルバーに表示されるとともに、ブックマーク（お気に入り）への登録や、検索サイトの結果表示にも使われます。また、音声ブラウザの利用者は、音声ブラウザが、ページタイトルのテキストを読み上げることでページの内容を把握します。このため、ページタイトルのテキストが不適切な場合、ページ本文の読み上げで判断しなければならず、内容を把握するのに時間がかかります。

【対応方法】

ページタイトルは、「(当該ページのタイトル)：磐田市」とします。

(当該ページのタイトル)は、内容を端的に表した表現にするよう努めましょう。

2. リンクは、リンク先の内容がわかるように表現する。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者・原稿作成者

【解説】

リンクの部分だけで、リンク先を正しく推測できない場合、利用者は必要なリンクを選択することが難しくなります。上肢に障害のある方は、リンクを選択しなおすことが困難なことがあります。また、音声ブラウザはリンク部分のみを読み上げる機能がありますので、例えば、「ここ」「こちら」などだけでリンクを付けた場合、音声ブラウザ利用者は、正しくリンクを選択できないことがあります。

【対応方法】

- ・「ここ」「こちら」など、指示代名詞だけをリンク先に指定しないようにしましょう。例えば、「より詳細な情報はここをクリックしてください」の文字列のうち、「ここ」だけではなく、最低限「より詳細な情報はこちらをクリック」までをリンクとしましょう。リンクする範囲を広げるだけで、分かりやすくなることがあります。
- ・「クリック!」「click here!」など、リンク先の内容を推測できない表現は避けましょう。
- ・画像で表示された文字や絵文字（アイコン）からリンクする場合は、ボタンの機能を正しく推測できるものにすると同時に、適切な alt 属性（代替テキスト）を設定しましょう。

3. 記号や省略表記を使用する場合は、音声での読み上げに配慮する。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者・原稿作成者

【解説】

テキストの記号は、音声ブラウザでは思い通りに読み上げないことがあります。重要な情報を示すのに、記号だけを使用することは避けてください。特に、絵文字（ASCIIアート）は適切に読み上げません。絵文字は使わず、文字や画像に置き換えてください。

【対応方法】

- ・注釈は、「※」「*」（コメジルシやアスタリスク）を使用せず、「（注1）」などとしましょう。
- ・曜日は、「（日）」と省略表記を行わず、「日曜日」と表記しましょう。
- ・日付表記の「/」「/」（スラッシュ）は、分数で読み上げるため、「月」や「日」の漢字を使用し、日本語で記述しましょう。
- ・年号は、「H15」などと省略表記をせず、「平成15年」と表記しましょう。
- ・ローマ字は大文字で表記しないため、電話番号は、「TEL」ではなく、「Tel」または日本語で「電話番号」と表記しましょう。
- ・期間、範囲を示す場合は、「～」を使用しましょう。
- ・これらのほか、音声ブラウザが適切に読み上げない場合、可能な範囲で対処しましょう。

4. 単語内にスペースや改行を挿入しない。また、半角文字と全角文字を混在させる場合は、音声での読み上げに配慮する。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者・原稿作成者

【解説】

音声ブラウザは、1単語内にスペースや改行が入っていたり、位取り（例えば1000ではなく1,000とする）や小数表記で全角数字を使用すると、思い通りに読み上げません。このため、音声ブラウザの利用者は、内容を正しく把握することが困難になります。

【対応方法】

- ・レイアウト目的で、単語内にスペースや改行を絶対に使用しないようにしましょう。
- ・価格などの数値は、すべて半角文字で表記しましょう。
- ・「¥5,000」（全角数字と全角記号）は、「5,000円」（半角数字と日本語表現）
- ・「1,000」（全角数字）ではなく「1,000」（半角数字）
- ・「1.11」（全角数字と全角小数点）ではなく、「1.11」（半角数字と半角小数点）

7. ダウンロードするデータは、ファイル形式、ファイルサイズを明記する。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者・原稿作成者

【解説】

ファイル形式やファイルサイズがわかりにくいと、利用者は自分のインターネット環境に応じたデータをダウンロードできなかったり、ダウンロードを躊躇したりする可能性があります。

【対応方法】

データのダウンロードを可能にするときは、データのファイル形式やファイルサイズを、あらかじめ参照できるようにしましょう。例えば、リンクに「***** (PDF : 100KB)」、「***** (WORD : 200KB)」などと記述します。

8. 基本的には英単語は小文字・数値は半角数字を使用する。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者・原稿作成者

【解説】

(英単語)

英単語が全て大文字により表記されている場合、音声ブラウザでは、アルファベットが一文字ずつ読み上げられることがありますので、原則として小文字で表記しましょう。ただし、「NPO」「PHS」「SARS」などのように略語等で大文字表記が通例となっている場合や製品名などの固有名詞はこの限りではありません。

(数値)

全角数字を使用した場合、音声ブラウザでは、数字が一つ一つ読み上げられたり、誤った位取りがされたりする場合がありますので、半角数字を使用しましょう。

9. 想定する利用者にとって一般的ではない言葉(外国語・略語・行政専門用語など)を多用しない。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者・原稿作成者

【解説】

外国語、略語、行政専門用語などは、特定の人にしか理解することができません。一般的な用語に置き換えるか、注釈や解説を加えましょう。

【対応方法】

- ・一般的ではない言語は、使用しないようにしましょう。
- ・専門用語を最初に記述するとき、解説を括弧書きや(注)などで記述しましょう。

10. 1ページの長さを、適切な長さにする。長くなるときは、適切なナビゲーション(ページ内リンクや”ページの先頭へ戻る”リンク)を設ける。

【対象】： ホームページ作成者・委託業者・原稿作成者

【解説】

縦に長すぎるページは、必要な情報を探し出すまでに、時間がかかります。また、上下のスクロールを多用しなければならず、利用者の記憶に負担をかけることがあります。特に弱視の方や上肢に障害のある方は、スクロール操作が困難なことがあります。

【対応方法】

- ・目次ページ以外の通常コンテンツページには「このページの概要」を必ず表記し、その部分を読めばそのページの概略がユーザーに理解できるようにしましょう。
- ・やむを得ず縦に長くなる場合は、ページ内リンク（アンカーリンク）や、ページの先頭へ戻るためのリンクなどの「ページ内ナビゲーション」を用意しましょう。
- ・ページの先頭へ戻るためのリンクなどは、サイト内で統一されたものを用いましょう。

11. 市ホームページから他サイトへのリンクについて

【対象】： ホームページ作成者・原稿作成者

【対応方法】

磐田市ホームページからリンクできるサイトは、公共性の高いサイトに限ります。営利法人や個人等への直接リンクは原則としてできません。ただし、業務上必要な場合は、担当部署の判断において必要と認められるサイトへのリンクについてはこの限りではありません。いずれの場合も、原稿作成段階でリンク先のサイト管理者に連絡の上、リンクについての承諾を担当部署で受けてください。

12. 他サイトから市ホームページへのリンクについて

【優先度】： B

【対象】： ホームページ作成者・原稿作成者

【対応方法】

磐田市ホームページを広く知ってもらうため、また掲載内容の幅広い周知のため、他サイトからのリンクについては原則して認めることとします。ただし、秘書広報課にリンク依頼のメールを送信し、許可を得ることを原則とします。

(リンク許可依頼メールアドレス：info@city.iwata.lg.jp)

また、下記の点に注意する必要があります。

- ・リンク元のホームページの内容が、法令や公序良俗に反しないこと。
- ・トップページ以外のページへのリンクを希望される場合は、そのページが都合により削除されリンク切れが起こる可能性があることを理解いただくこと。

13. 文字色と背景色のコントラスト(明度差など)を充分に取る。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

文字と背景の色のコントラスト（明度差など）が小さくなるほど、文字は読みにくくなります。弱視の方や高齢者向けには、特にその差を充分確保する必要があります。また、色覚障害のある方は "赤と緑"、"黄と青"の組み合わせが、高齢者は "白と黄"、"青と黒"、"青紫と黒"の組み合わせを識別することが困難となる場合があります。

【対応方法】

- ・同系色は使わず、文字色を目立たせて、明度の差を充分に確保しましょう。
- ・特に、「赤と緑」、「白と黄」、「青と黒」、「青紫と黒」の組み合わせは、避けるように注意しましょう。

14. ウェブコンテンツの内容を理解・操作するのに必要な情報は、色のみを使用せずに、文字やパターン(模様)などを併用する。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

色覚障害のある方や、加齢による視覚の変化がある場合は、色の違いを把握することが困難なことがあります。また、白黒で印刷した場合、色の違いの把握が難しいことがあります。

【対応方法】

- ・グラフなどを掲載する場合は、色のみでの区分だけではなく、必ず引き出し線を入れて文字情報も併記するなど、情報を識別できるように補足しましょう。
- ・文章中で色名を使用する場合も注意が必要です。例えば、「赤色のボタンではなく、緑色のボタンを使用してください。」など、色名だけの表現は避けましょう。
- ・(例)「赤色の[中止]ボタンではなく、緑色の[更新]ボタンを選択してください。」など、色名以外の表現を加えましょう。

15. 現在表示されているページが、サイト全体、もしくは、コンテンツ内のどこに位置しているか、把握できるようにする。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

現在位置の表示がないと、利用者は、サイト全体、もしくはコンテンツ内のどこを参照しているか、分からなくなる場合があります。

【対応方法】

- ・TOP ページから該当ページまでの過程を示す「パンくずリスト」を各ページ上部の決められた位置に設置しましょう。なお、パンくずリストは、当該ページ以外の経路にあたる部分には必ずリンクを設定しましょう。
- ・同一情報カテゴリー内の他情報にスムーズに移動できるよう、ローカルナビゲーション（ページ左側のナビゲーション）をしっかりと整備しましょう。（特に新規ページ作成時）

16. 横方向のスクロールが発生しないようにする。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

ブラウザで縦と横の両方にスクロールが表示されている場合、ページ全体の把握が困難になり、特に、上肢に障害のある方は、スクロール操作が困難になることがあります。また、弱視の方の場合、拡大ツールで画面の一部を拡大していることがあり、拡大ツールのスクロールとブラウザのスクロールが二重になると、操作がさらに困難となります。スクロールを縦方向だけにすることで、多くの利用者がページを参照しやすくなります。

【対応方法】

横幅 800 ピクセル以内で全てのページを作成しましょう。

17. フレームは使用しない。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

フレームを使用したページは、ブラウザのブックマーク（お気に入り）へ登録できなかったり、検索エンジンを使用した時に、フレームの一部として作成されたページが、検索結果に表示されるなど、その後の操作が困難になることがあります。

さらに、音声ブラウザでは、フレームを1つずつ選択して読み上げなければならず、フレームで細かく分割されたページでは、ページ全体の内容を把握するまでに時間がかかりますので、フレームは絶対に使用しないようにしましょう。

18. 同一サイト内へのリンクは、同じウィンドウに表示し、新たなウィンドウを開くことは、必要最小限にする。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

必要以上に多くのウィンドウを開くと、サイトを表示している機器に負担がかかり、コンテンツの表示速度が遅くなることがあります。また、新しいウィンドウが開いたことに気づかず、その変化に戸惑うとともに、多くのウィンドウが開いた場合に不要なウィンドウを閉じなければならず、操作が困難になります。

【対応方法】

- ・磐田市ホームページ内のページから、同じく磐田市ホームページ内へのリンクは、同一のウィンドウで開くことを基本としましょう。
- ・次の場合は、1つだけなら新しくウィンドウを開いてもよいこととします。
 - (1)磐田市ホームページ以外のホームページへのリンク
 - (2)ヘルプなど明らかに同時に参照したい情報へのリンク
- ・新しいウィンドウを開いたほうが、内容を参照しやすい場合は、あらかじめリンク元で新しいウィンドウが開くことを明示しておきましょう。

(例) 詳細内容は●●●のページへリンクします (別ウィンドウで開きます)

19. リンクのある文字や画像などは、クリックしやすいように十分な面積にし、誤操作しないように十分な間隔をあげる。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

リンクのある文字や画像が隣接していたり、リンク部分の面積が小さい場合、リンクの区切りが分からなかったり、上肢に障害のある方や高齢者は、思いどおりにリンクを選択することが難しいことがあります。

【対応方法】

- ・適度なリンク範囲を確保できるように、文字列全体にリンクを設定するか、大きな画像や文字などを使いましょう。
- ・隣接するリンクの間に、十分な間隔を設け、テキストリンクが横に並ぶ場合は、各テキストリンクの間に縦線（|）や斜線（/）などを入れましょう。
- ・テキストリンクが縦に並んでいる場合は、行間が狭くならないよう注意しましょう。

20. すべての画像には、画像の内容を的確に示す alt 属性をつける(画像の代替情報)

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

ブラウザで画像を非表示に設定している利用者や音声ブラウザの利用者は、画像（タグ）の代わりに、alt 属性（代替テキスト）の内容を読み上げます。alt 属性（代替テキスト）が指定されていないと画像の内容を把握できないことがあります。また、リンクのある画像の場合、alt 属性が指定されていないと、音声ブラウザは、リンク先の URL を読み上げます。

【対応方法】

画像にリンクがない場合

- ・内容を的確に示す alt 属性で画像の内容を記述しましょう。
- ・箇条書きのポインタや仕切り線などの意味を持たない画像や、テキストが併記されている画像には、alt=""と記述し、""の中には何も入力しないようにしましょう。

画像にリンクがある場合

- ・リンク先を alt 属性として記述することで、画像の説明が不要となる場合は、画像の説明を省略して構いません。
- ・画像の内容を詳細に解説する必要がある場合は、リンク先は alt 属性に記述し、画像の解説は画像と同じ HTML 内にテキストで記述しましょう。

21. A4 縦サイズで印刷できるような形式で作成する。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

印刷時に切れた形で出力されるのを防ぐため、利用者が A4 縦サイズで印刷できるような形式でホームページを作成しましょう。

【対応方法】

作成後、印刷プレビュー画面で A4 縦サイズでの印刷が可能かどうか確認しましょう。

22. ホームページ作成時のフォルダ(階層)構造の基本ルールについて

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【対応方法】

フォルダ名の付け方

- ・フォルダ名には、必ず半角英数字を用いてください。
- ・英語は必ず小文字に統一してください。
- ・「-」（ハイフン）、「_」（アンダーバー）以外の記号やスペースを使うことはできません。

フォルダの作成について

フォルダを作成する場合は、深いフォルダ階層にしないようにしましょう。また、フォルダを必要以上に多く作ることも避けるようにしましょう。このようなフォルダの作成を繰り返すと、ページの URL が長くなったり、ホームページデータの管理がしにくくなるなど、利用面でも管理面でも弊害が出てきます。

23. 画面全体が短時間で連続的に変化するような表現を使用しない。画面の一部でも、明滅やスクロールの速いもの、色のコントラストが極端に変わるものなどは、使用しないことが望ましい。

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

光過敏性てんかんのある方は、1秒間に数回の明滅や、ストロボ光のような光量の急激な変化に対し、発作を引き起こす場合があります。視覚に障害がある場合や、加齢などの原因で認知力などが低下してくるような場合には、明滅や自動スクロールなど、視覚的に変化する情報は把握しにくくなります。

【対応方法】

画面要素（文字、画像など）に、明滅や自動スクロールなどは基本的には使用しないようにしましょう。

24. 文字サイズ、フォント、および、行間は、利用者が変更できるようにする

【対象】：ホームページ作成者・委託業者

【解説】

小さな文字や、行間、文字間隔の狭い文章は、多くの利用者にとって読みにくいものです。文字サイズや行間を読みやすく指定し、さらに、利用者が自分のパソコンの設定を自由に変更できるようにしてください。

【対応方法】

文字サイズについて

- ・スタイルシートで指定しましょう。
- ・相対値で指定しましょう。

例えば、「font-size:14pt」ではなく、「font-size:120%」のように相対値で指定することで利用者のブラウザでのサイズ変更が可能になります。

行間について

- ・スタイルシートで指定しましょう。
- ・相対値で指定しましょう。
- ・line-height: は、日本語で 110 から 200%。英語で 160 から 250% とします。

【付録】用語解説

アクセシビリティ

高齢者や障害者はもちろん一時的な障害など、心身の機能に制約があってもホームページで提供されている情報に問題なくアクセスでき、だれでも平等に利用できるように制作すること。

ウェブブラウザ(ブラウザ)

コンピュータのデータやプログラムを見るために、画面上に文字や画像として表示するためのプログラム。特に、インターネット上のホームページの情報を表示するための閲覧ソフトをいう。代表的なものとして、インターネットエクスプローラー。なお、ホームページのテキスト（文字）情報のみを表示するブラウザを「テキストブラウザ」という。

音声ブラウザ

主に視覚障害者がホームページ閲覧に使用するもので、ブラウザに表示されているホームページの内容を合成音声で読み上げるソフトウェアのこと。

スタイルシート

ホームページの見栄え（色や大きさ、位置）を定義するための技術。文字の大きさやフォントなどの書式を登録し、それをホームページ全体または任意の箇所に指定することで、レイアウトを指定できる。

ナビゲーション

各ページにおいて、トップページや大分類の項目、現在の位置などを明示的し、利用者に対して方向指示や位置確認をするための仕組みや表現のこと。

フレーム

ページを分割して表示させることができる技術のこと。

ホームページ

ウェブブラウザ等を用いてアクセスする情報及びサービス（＝ウェブコンテンツ）を広く指す。本来は、ウェブサイトにおいて最初に表示されるページ（＝トップページ）のみを指すが、ウェブコンテンツの全部又は一部を指して使用されるのが通例となっている。

HTML

HyperText Markup Language の頭文字をとったもので、リンクの仕組みを持ったマークアップ言語。ホームページは基本的に HTML で記述されている。